第24回海洋会ボランティアクラブ総会

事務局長　清原久和（東船大N16）

§１．前書き

明治丸特別部会を「明治丸ボランティアクラブ」の名称に変更したグループと、「ビーチクリンアップ」、「海洋支援」、「船の科学館」等で活動を行ってきたグループを統合したものが「海洋会ボランティアクラブ」である。

海洋会会員に「海洋会ボランティアクラブ」の活動を広く知っていただきたいと考え、以下に総会の内容を報告する。

§２．第24回総会

日時、場所…平成27年６月20日（土）16：00より、
東京海洋大学越中島キャンパス

出席者（31名）

安部　勝	新井　典郎	伊藤　喜市
伊原　厚司	江森　健二	大村　寿一
尾身　衛男	神谷洋一郎	北澤　昌永
清原　久和	佐藤勝二郎	澤間　譲治
七田　央	須田　紘一	高杉　洋一
立石　健三	都築　雅彦	長尾　卓治
中澤　一義	中島　光雄	野口　晟圭
橋本　進	林　作治	早津　義彦
原　鉄男	広瀬　斉	古市　初夫
松﨑　光男	望月　二朗	森　利彦
山崎　忠順（50音順）		

（他に委任状提出者24名）

１．議事

第１号議案「平成26年度事業実績」
第２号議案「平成26年度会計報告」
第３号議案「平成27年度事業計画および予算」
第４号議案「役員人事、会員の異動」等
その他報告①海洋会ボランティアクラブ「明治丸グループ」会則の変更
②明治丸修復の現状他
③海洋会の動向について
④NPO法人日本海洋塾の現状について

・第１号議案、第２号議案、および第３号議案については、議案どおり全会一致で承認された。
・第４号議案については、提案どおりに全会一致で承認された。この結果、平成27年度役員の新体制は次のとおりとなった。（敬称略）
代表幹事　原　鉄男
事務局長　清原　久和
幹事　新井　典郎　小田島　厚　佐藤勝二郎
都築　雅彦　林　作治　広瀬　斉
松﨑　光男　望月　二朗（以上再任）
古市　初夫（新任）
監事　早津　義彦　山崎　忠順（以上再任）

また、総会までに退会者２名、入会者６名（平成26年内３名、平成27年内３名）の報告があり、新入会者全員が出席者へ紹介された。

・海洋会ボランティアクラブ「明治丸グループ」会則の一部変更について報告がなされた。
「グループメンバーおよびその他の関係者の死亡時の対応」として、かかる場合には明治丸グループとしては、遺族宛に弔電のみを送るにとどめる旨を新たに規定したものである。

２．各グループの事業実績と事業計画

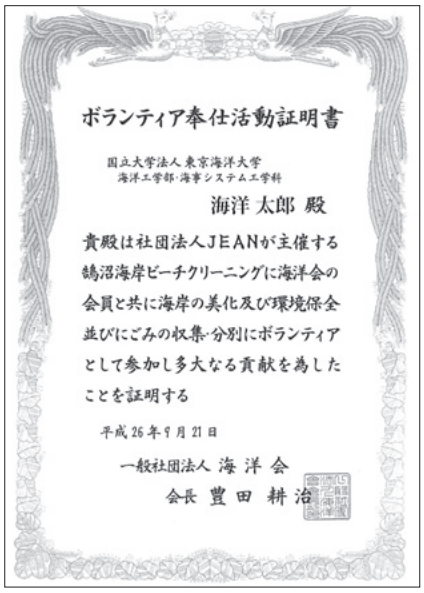
海洋会ボランティアクラブの４つのグループより、それぞれの活動状況について、次のとおり報告された。

【明治丸グループ】

（１）平成26年度事業実績

修復工事のため全期間を通じて明治丸の公開は停止された。このため、明治丸グループの活動は、百周年記念資料館の常設、および企画展示におけるガイド活動が主なものであった。

また、大学側との間で隔月に開催される「連絡協議会」の場において、修復工事や工事完成後の維持・管理、利活用等に関する種々の提言を行った。年間の活動実績は次のとおりである。



ボランティア奉仕活動証明書

国立大学法人 東京海洋大学
海洋工学部 海事システム工学科
海洋 太郎 殿

貴殿は社団法人JEANが主催する
鵠沼海岸ビーチクリーニングに海洋会の
会員と共に海岸の美化及び環境保全
並びにごみの収集・分別にボランティア
として参加し多大なる貢献を為した
ことを証明する

平成26年9月21日

一般社団法人 海洋会
会長 豊田 耕治

常設展示（上期）平成26年４～６月
延べ29日間
延協力者85名、見学者数1,129名
（下期）平成26年９月～平成27年３月　延べ56日間
延協力者115名、見学者数1,182名
特別企画展示（テーマ：商船学校を周る街々）　平成26年７月１～31日
開館日数22日
延協力者61名、見学者数739名
深川さくらまつり（江東区主催）
平成26年４月５、６日及び平成27年３月28、29日
延協力者16名、見学者数156名
総計　延協力者277名、見学者数3,206名

（２）平成27年度事業計画

大学からの要請に応じて、従来からの「百周年記念資料館」の常設・特設企画展示に加え、年度内に再開予定の「明治丸」の一般公開を通じた活動を積極的に行うこととする。

また、新たな会員の増強を積極的に進めるとともに、「明治丸」の維持・管理及び利活用についても、平成27年１月に発足したＮＰＯ法人「日本海洋塾」との連携について検討を進める。

【ビーチ・クリーンアップグループ】

（１）平成26年度事業実績

全体的に参加者が減少傾向にあるが、当グループは他団体や海洋大学生への勧誘を図った結果、減少傾向に歯止めがかかるとともに、学生参加の効果もあって、会員のボランティア意識も高まってきた。

また、主催者であるJEANの活動運営・企画会議にも参画し、当グループの存在感も高まってきた。

26年度の鵠沼海岸における活動実績は次のとおりである。

春季ビーチクリーニング：
平成26年４月20日（日）参加者12名（学生２名）
秋季ビーチクリーニング：
平成26年９月21日（日）参加者11名（学生３名）

（２）平成27年度事業計画

海洋会若手会員および海洋大学生への勧誘を強化し、積極参加を促すこととする。学生の参加者には、これまで同様に、海洋会会長より「ボランティア奉仕活動証明書」を発行する。また、JEANの活動運営・企画にも積極的に参加することとする。

【船の科学館グループ】

（１）平成26年度事業実績

平成23年９月より始まった、「船の科学館」の休館状態は平成26年度中も継続され、現在は元南極観測船「宗谷」の一般公開、マリンショップを利用したミニ展示や児童への本の読み聞かせなどを行っているのみの状態である。

このような状況下、当グループの出番はなく、活動を休止したままの状態が継続した。

（２）平成27年度の事業計画

「船の科学館」の再建、再会館の見通しが立たない中、当グループの存在そのものが問われるが、とりあえずは現状維持のまま、情報収集と科学館との連絡窓口としての活動を行う。

【海洋会支援グループ】

（１）平成26年度事業事績

本グループ（リーダー：川崎裕康TE５）は、会員18名、非会員１名の計19名で構成され、海洋会誌「海洋」の封書詰め発送作業への協力を行っている。平成26年度の活動実績は次の通り。

海洋No 887（2014年５月22日）～海洋No891（2015年３月６日）の間、計５回実施した。

延参加者は65名であった。

（２）平成27年度事業計画

平成27年度も前年同様の作業協力を行う。

３.「明治丸」修復工事の完了と今後の「明治丸海事ミュージアム事業」

総会冒頭、原鉄男代表幹事より、新しく東京海洋大学明治丸海事ミュージアム機構長（副学長兼任）に就任した稲石正明氏、海洋会本部新会長山本勝氏および同新専務理事岡本建之介氏が紹介された。

その後、稲石正明新機構長よりパワーポイントを使用し、「明治丸事業の歴史と経緯、今後の展開」と題してプレゼンテーションが行われた。

この中で、東京海洋大学における「明治丸海事ミュージアム事業」と「明治丸海事ミュージアム機構」の歴史、関係規則およびこれまでの経緯が時系列的に解説され、また今後の展開について言及された。その要点は次の通りである。

（１）明治丸募金活動

平成21年３月に「明治丸募金委員会」を組織し開始された募金活動は、平成27年１月末を以って終了した。募金合計額は約３億6,500万円であった。今後は、東京海洋大学基金の下に「東京海洋大学明治丸海事ミュージアム事業支援委員会」を新たに設立し、透明性を確保しつつ寄付金を管理し、使用していくことになる。

当委員会の外部委員は主要募金者で、募金の使用、活用状況は大学のHPで随時報告。

（２）明治丸修復工事

平成26年１月から開始された明治丸の修復工事は、平成27年３月末をもって無事完了した。引き続き同年５月まで、内装工事が行われた。当内装工事には、明治丸募金委員会の承認を得て、募金の一部（上限１億8,672万円）が使用された。

（３）明治丸竣工記念式典等と明治丸の一般公開

７月19日に明治丸竣工記念式典が行われ、この時式典参列者および寄付者を対象に、明治丸の見学が行われる。その後、11月１日の海洋工学部創立140周年記念式典を経て、一般に公開されることになろう。

（４）明治丸記念館の建設

当初の規模より縮小したものになるが、国からの交付金により平成27年度中に建設の予定である。

（５）明治丸海事ミュージアム事業における海洋